



御衣黄・ギョイコウ（早川区・高田康夫さん宅）

町民文芸

【短歌】 米納 三雄 選

朝まだき黄砂を風は運び来て山は霞みて村里見え
どの花も切るには惜しく鉄持ち佇みており庭に出て来て
庭に咲く白木連の純白を雪の降り来て茶色に染めゆく
亡き夫の手垢残れる辞書めくり短歌詠み居り桜花咲くかたへに
草原で四ツ葉のクローバー探し当て何かよき事ある予感なり
電話子器を部屋のはちこち持ち歩く癖の直らず母亡き後も
恒例の同窓会にはや八十路集う同朋みな元氣な笑顔
庭に咲く千原桜にまたも来て二羽の目白が蜜吸い遊ぶ
彼岸会の法話身に沁み帰る家の木連満開で待つ
造成の墓処に映ゆる花の下桜浄土と御霊賞でるむ
春眠覚えいる吾にして年重ねゆくことの寂しき
里山の麓の家並み新しく村と呼びしは遠き日のこと
父母誘い春の一日を花で愛で幸せ気分満喫したり
心地良い日和の昼間散歩する水面に映る春の淡色
青春の岐路に立つごと群れて行く受験生らの青白き顔

田添 徳子
塚原 曉益
本田富美子
松本ぬい子
森田 房恵
内田乃武子
井上ユリ子
上村 かず
吉永由紀子
本田 隆章
上村やす美
内山タミエ
緒方 明美
赤星 延子
渡辺 幸士

皆さんの作品をお待ちしております。
(町公民館事務局 ☎096-234-1111)

【夕日】

夕日映え想い出してる北満を 内村 邦夫
勤務終え車窓に夕日里の道 緒方 瑞枝
残照の人生心豊かに過ごしたい 林 雅之
青春の真っ只中に見た夕日 緒方 正堂
花曇り阿蘇の寒さに手も凍え 布田 愛子
さくら花夕日を浴びて冴え渡る 福田 清子

【花見】

【川柳】

満開は過ぎて宴に若葉かけ 丸岡はる子
春の宵花見の客の多いこと 道上 絹子
親たちと花見酒酌む亡夫の夢 成松 松枝
胃が痛むのれん降ろした町通り 北 仁子
夕食後胃の門限に鍵かける 坂口 政子
ストレスか胃薬飲んで紛らわす 古閑チヨミ
家計簿の仕分け男の胃が痛む 渡辺 幸士

春泥の乾くを待ちて畑休む

本田サツ子

落ち椿拾いし山路懐かしき

古田 幸子

年嵩ね徒然に読む暮春の書

楠本 美鶴

恙なく生きる幸福春彼岸

本田 信子

さえずりの一羽がたてば皆たてり

堀田 孝恵

【俳句】

北国のおこぼれ雪か淡く消ゆ

田端 慶子

孫娘の寿春の空の旅

高田れい子